

## 巻頭言

### 専門医制度について

九州地方会会長 藤原 卓

日本小児歯科学会は2004年9月1日に有限責任中間法人を取得しました。それともない、厚労省へ専門医制度を申請中であり、本年度中には許可される見通しになってきました。大東理事長（旧会長）の指示により、各地方会会長が専門医委員会に時折、オブザーバー参加しております。そこで、地方会会員の皆様にとっても最も関心が高いと思われる専門医選定のスケジュールについて、現時点で判明していることをご報告させていただきます。

最初にお断りしますが、現在検討されている制度はあくまでも平成20年3月までの移行期間の制度であり、それ以降の本格実施のシステムは会員の意見を聞きながら、もう少し時間をかけて検討される予定です。

#### 1. 専門医制度の開始

専門医制度は認定医をベースに考えられています。一度に専門医を決めてしまうと審査や、以後の更新手続きが困難になるので、段階的に決定する予定になっています。最初は専門医第1期生220名（指導医120名を含む）が選出される予定です。社会的な責任を問われる専門医では、より客観的な基準、制度が要求され、専門医を維持するためには現在の認定医よりさらに厳しい研修単位（100単位）が要求されます。

#### 2. 専門医指導医1期生の選定

正式な専門医制度は9月の総会（旧理事会）で決定される予定です。それを待たずに、専門医指導医の選定が開始されます。専門医指導医は、研修指導だけでなく、専門医の試験や実地審査などを担当します。

法人では現時点では現在の認定医指導医と学会評議員を第1期指導医の候補としています。8月に専門医委員会では審査を行い認定医指導医を決定する予定です。その際、地域バランスをとるため、第1期の専門医指導医は各地方会毎に20名（関東は40名）を配置することになっています。

### 3. 専門医1期生の選定

専門医制度が正式に承認され、会員に広報されれば、10月から専門医の募集が開始される予定です。法人としては、認定医更新回数の多い会員から、順次専門医を選定する予定になっています。この時点でも専門医の地域バランスを考慮した人数の調整を行う予定です。この専門医1期生100名は12月の総会で承認される予定です。引き続き、18年3月の総会で130名（指導医50名を含む）が決定される予定です。

上記の事項は、あくまでも本稿執筆時点（7月末）の情報であり、変更される可能性があります。専門医に関する法人からのアナウンスは逐次、学会のホームページや小児歯科学雑誌で行われますので、皆様も積極的に最新情報をチェックして頂くようお願い致します。また各地方会大会に大東理事長はじめ専門医委員会の委員が専門医制度について説明するため派遣されることになっています。

最後に個人的見解ですが、専門医制度は地域の先生方に向けた制度であるべきと考えます。本格実施にむけて会員の皆様のご意見をお待ちしています。

## 認定医委員会報告

### 報告事項

平成16年12月23日 平成16年度第2回認定医試験実施(東京) 34名受験し、全員合格。  
平成17年 3月17日 平成17年度第1回認定医委員会開催(東京)

1. 認定医更新者について、上提案どおり承認。
2. 認定医・指導医の書類審査および面接試験の日程について（会員歴は春の審査については2月末日をもって5年、秋の審査については8月末日をもって満5年が必要であること。）  
書類審査合格者：指導医1名、認定医11名(九州4名)
3. 平成17年度研修セミナーおよび救急蘇生法講習会について  
演題 医療事故に関する予防と対処  
講師 佐久間泰司（大阪歯科大学麻酔学講座 助教授）  
平沼 直人（平沼高明法律事務所 弁護士）

日程・場所 \* 九州地区 平成17年11月20日(日) 午後1時 福岡ガーデンパレス、  
関東地区 平成17年 9月25日(日) 午後1時 鶴見大学記念館、  
会費 3,000円

小児の救急蘇生法講習会: 例年通り、セミナー当日の午前中に先着40名で講習会費1万円です。

\* 平成18年度以降の研修セミナー開催地について、年2回の開催で、時期は9月から11月の予定です。

平成18年度 北日本地区・関東地区

平成19年度 中部地区・関東地区

平成20年度 近畿地区・関東地区

#### 4. 認定医研修会の申請について

お問い合わせ先 財団法人 口腔保健協会内の担当田辺、合力まで

電話 03-3947-8891代表

平成17年4月14日 平成17年度第2回認定医委員会開催(東京)

#### 1. 専門医について

平成17年6月12日 平成17年度第1回認定医試験(大阪)

12名受験し全員合格(九州4名)

## お礼

日本小児歯科学会認定医制度に関するアンケートを昨年暮れより会員の皆様方へお願いしておりましたが、全国から1815名の回答をいただき、うち九州の会員は264名でした。設問の中から幾つか報告いたします。

認定医から専門医への移行について、賛成である45%、反対6%、どちらでも良い42%という結果でした。研修施設ならびに指導医について、研修施設は大学の病院の小児歯科のみで十分である20%、一般開業医でも、指導医として十分な資格を有する所では、研修施設に入れて欲しい40%、指導医の資格は大学勤務期間以外(現在は、大学勤務期間のみ有効)でも、また、その他の機関での勤務あるいは開業医にも認められるような幅広い制度にして欲しい40%という結果でした。認定医制度から専門医制度へと、流れが変わろうとしています。あとの設問、ご意見等につきましては紙面の都合上割愛させていただきます。アンケートへのご協力、ならびに貴重なご意見ありがとうございました。今後、認定医委員会で参考にさせて頂きたいと思っております。

九州地方会会員数(平成17年7月現在)

会員 539名、(認定医 216名、認定医指導医 16名)

(日本小児歯科学会認定委員 樽美 哲生 記載)

## 日本小児歯科学会広報委員会報告

今年度の広報委員会の活動としては、本会のホームページのリニューアルが中心となっています。ホームページに対する要望、意見も個々の会員の皆様から様々な意見があるため、なかなかその構成、システムを決めにくいのですが、今回は本格的な改訂の前段階として、現在のホームページを基本的な内容、構成はそのままにして、少し見やすく、親しみやすくするというを中心に実施しました。その結果、今年の5月の仙台の学会に合わせてリニューアルして開通しましたので、会員の皆様のインターネットのお気に入りに加えて頂き、常に学会からの発信を見て頂きたいと思っております。今後、さらに使いやすく内容も充実させていきたいと考えていますので、会員の皆様のご意見ご要望をよろしくお願いいたします。

その他の活動としては、「かかりつけの小児歯科医」をアピールするためのポスター作成を検討しています。広報委員会の活動は幅広く、多岐にわたりますが、少しずつではありますが、確実に具体化していきたいと考えていますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本小児歯科学会ホームページ <http://www.jspd.or.jp/>

( 広報委員 品川 光春 記載 )

## 九州地方会開業医連絡協議会からのお知らせ

九州地方会開業医連絡協議会は、九州地方会役員会の一部門として、発足しましたが、まだ、実質的な活動は行なっていません。九州地方会、全体としての問題が検討された後に、大学と開業医会の機能的な役割分担を行ないたいと考えています。

また、各地区の開業医会の問題があれば、それを九州全体の問題として、捉え、必要であれば、日本小児歯科学会へその検討事項や要望事項として、伝えていきたいと考えています。

各地域の小児歯科開業としての声と地域の子どもたちの代弁者の双方の役割を担いたいと思っています。どしどし、ご意見をお寄せください。

( 有田信一 記載 )

連絡先 : ありた小児矯正歯科 有田信一

TEL: 095(862)8131 FAX: 095(862)3725 Mail: [sarita@mocha.ocn.ne.jp](mailto:sarita@mocha.ocn.ne.jp)

## 第24回 日本小児歯科学会九州地方会大会および総会のご案内

開催日 : 平成18年10月～11月の日曜日もしくは祭日

場 所 : 鹿児島市内(鹿児島大学構内もしくは県歯科医師会館)

特別企画: 乳歯列期小児の歯列咬合異常の問題点と対応法に関するシンポジウム、および障害児(者)歯科医療に関する特別講演などを検討中

大会会長: 山崎要一

準備委員長(予定): 吉原俊博

担 当: 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻 発生発達成育学講座 口腔小児発達学分野

( 教授 山崎要一 記載 )

## 九州大学小児歯科紹介

九州大学独立法人化および九州大学病院統合が既に導入されて、我々小児歯科のスタッフはその本格運用による改革のまっただ中にいます。病院経営面での効率性と収益性の改善、臨床教育における指導力強化、臨床応用に結びつく研究の展開そして小児医療を支える基盤研究推進と、いずれも重要な課題となっています。これらの課題達成に教室全体で取り組んだとしても、多大な労力と時間を要しますが、動き出した改革という名の歩みは、前進あるのみでしょうか。このような状況の中での、小児歯科学教室の臨床、教育そして研究での運営を余儀なくされています。教室主任としては力量不足もあり、ダッチロール的運営で現教室員には多大のご迷惑をかけています。こうした現実の中でも、4名の研修医と4名の大学院生が、大きな志を抱いて当小児歯科に入局しました。我々の大きな期待の星です。積極的に臨床研修を積んでもらい、小児歯科医療の新しい担い手となることを念願しています。

来年4月には、新しい施設に移転し名実共に病院統合が実現します。新九州大学病院には、こどもの高度医療の拠点となる「小児医療センター」が開設されます。小児科や小児外科と共に小児歯科もその一翼を担っています。また研究面でも、「母子総合研究リサーチコア」のプロジェクトが開始しました。母性関連科学と小児関連科学に関する基礎研究と臨床研究を重層的に結びつけた新たな総合研究の展開です。当小児歯科学教室の研究は、本プロジェクトに大きく貢献します。小児歯科の次世代パワーを育成しながら、民間的発想も導入した大学病院小児歯科臨床の構築に挑戦中です。優しく見守っていただける状況では決してありませんが、主任として長期的スタンスでの確固たる信念のもと、その実現に向けて努力しています。教室員の理解と献身的な努力により実現するものです。その現在の小児歯科のスタッフを次に紹介いたします。ご指導と交流を宜しくお願い申し上げます。

診療科長（教授）：野中和明、診療副科長（助教授）福本敏、医局長（助手講師）：緒方哲朗、

外来医長（助手）：藤瀬多佳子、講師：二木昌人、早崎治明、助手：中田志保、山田亜矢

医員：湯浅健司 研究生：福山可奈子、飯田 翠、山田 礼子

研修医2年目：永瀨 由美子、松石 裕美子

研修医1年目：石橋 真由子、稲葉 麻衣子、中本 由希、堀 佳代子

研修登録医：上鶴 稔子、肥川 員子、水上 あかね、峰松 清仁、河島 仁美

大学院生：徳富 順子、村岡 慎子、中村 由紀、山本 晋也、小西 郁理、田中 克枝、湯浅 真理、  
中村 紀彦、藤田 裕美子



## 故瀬尾令士先生を偲んで



瀬尾先生が、1月24日にお亡くなりになり、早半年が過ぎようとしています。前の日は、久しぶりに福岡歯科大学の小児歯科同門会で、皆、瀬尾先生と親しく話をしました。別れて1日もたないうちに、先生の訃報に接するとは誰が予想したのでしょうか。先生は、福岡歯科大学の一期生で、すぐに小児歯科学教室に入局されて以来、同僚や私達後輩を引っ張り、率先して研究に従事されました。熊本で開業されてからも、教室の非常勤講師としてこれまで教室をサポートしていただきました。どれだけ私達は先生に助けられたことでしょうか。先生はバイタリティあふれる行動家であっただけではありません。地元にはスタディグループを作り、多くの後輩を指導し、立派な臨床家を育てられました。いつも研究心を絶やさず、真摯な素晴らしい臨床家でもありました。これまで多くの臨床論文を専門雑誌や教科書に書かれています。また、先生には卓越した政治力があり、日本小児歯科学会の理事として本当に貴重な存在でした。開業医としては始めて日本小児歯科学会九州地方会の会長となり、リーダーシップを発揮して、地方会の発展に尽くされました。そんな瀬尾先生が53歳で生涯を閉じられるとは、誰が思ったのでしょうか。九州地方会は大黒柱を失い、道案内を失った感じです。まだまだ先生には頑張っていたかかったのですが……。

瀬尾令士先生のごことは、語りつくせませんが、悲しみは今も深く、ただ先生の思い出にひたりながら合掌いたします。

( 福岡歯科大学 尾崎正雄 記載 )

## 福岡県西方沖地震被害調査結果

福岡県と佐賀県在住の会員、約300名に対し、4月下旬にアンケートを送付した結果、7月上旬までに105名から回答が得られた。そのうち、27名の会員から被害が報告された。

- ・被害報告はすべて福岡県の会員からであり。佐賀県の会員からの被害報告はなかった。
- ・人的被害は皆無であったが、15名の会員が建物の被害を受けていた。
- ・休診を余儀なくされた会員は、6名で、1日以下の休診が多く、最長でも2日であった。しかし、14名については地震後にキャンセルの増加など患者数の減少があった。被害を受けていない地域でも、地震後の患者減少が報告されている。
- ・地域的には震源に近い福岡市中央区(9名)や西区(3名)が多く、北九州市などでも被害が報告された。

# 平成17年日本小児歯科学会九州地方会役員会議事録

日時:平成17年7月13日(水) 午後6時より

場所:福岡ガーデンパレス

参加者:藤原会長、野中副会長、有田副会長、木村、山崎、牧、細矢、橋本、梅津、逢坂、木船、井上、田口、吉元、奥、久保田、樽美、品川、久保山(代理)、藤瀬(第23回大会準備委員長)

欠席者:本川、尾崎、吉原、久芳、竹島(敬称略)

## 報告事項

### 1. 会長報告

専門医制度実施に向けての現時点での進行状況、地方会の関わりについて報告があり、それに対する質疑応答があった。

### 2. 第21回日本小児歯科学会九州地方会大会会計報告

会長より事務処理の不手際から遅れていた会計および会計監査が終了したことが報告された。

### 3. 第22回日本小児歯科学会九州地方会大会会計報告(資料2)

牧大会準備委員長から会計報告が行われ、承認されるとともに、樽美監事より監査報告が行われた。

### 4. 第23回日本小児歯科学会九州地方会総会および大会準備状況

藤瀬大会準備委員長より現状報告が行われた。

### 5. 第24回日本小児歯科学会九州地方会総会および大会準備状況

担当の山崎教授より、現在検討中であり詳細は秋の役員会で報告する予定であることが報告された。

### 6. 福岡県西方沖地震の被害調査について

会長より趣旨説明の後、担当の早崎幹事より調査報告があった。被害をうけた会員は27名であった。

## 協議事項

### 1. 顧問の委嘱について

九歯大を退官された木村先生に顧問を委嘱することが承認された。これに関連し、顧問の位置づけについて今後検討することになった。

### 2. 地方会会計について

法人化に伴い、従来とは異なる会計処理が必要となった。法人からの地方会への指示を報告し、それに基づく会計処理の変更(口座の変更など)が承認された。さらに、今後どの様な予算編成をすべきかについて議論され、最終的に秋の役員会で決定する方向で継続審議となった。

### 3. その他

次期地方会会長の会長選に向けての作業を開始することになった。

保険制度や医療安全管理についての意見交換を行った。

## <編集後記>

空梅雨で始まった今年の雨期は、最後の土砂降り雨量の帳尻あわせを計った感が致します。医療行政も改革を目指している訳ですが、こちらは単なる帳尻合わせで終わらせる訳には参りません。現場の皆様の意見が、もっと出てきて良いと思うのですが。(細矢 記)

